



平成 26 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 エ ナ リ ス
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 池 田 元 英
(コード番号：6079 東証マザーズ)
問 合 せ 先 経 営 管 理 本 部 長 畑 直 史
(TEL. 03-5284-8326)

バイオ燃料によるディーゼル発電所新設計画に関するお知らせ

株式会社エナリス（本社：東京都足立区、代表取締役：池田 元英、以下「当社」）は、平成26年5月12日開催の臨時取締役会にて、新たにバイオ燃料を使用したディーゼル発電所を建設する計画を決議しましたのでお知らせ致します。

今後、発電所の建設にあたって開示すべき事項が生じた場合には、改めてお知らせ致します。

記

1. 事業開始の趣旨

当社はこれまで電源開発事業にて、太陽光発電の構築に加えてバイオマス・バイオガス発電の構築にも積極的に取り組んでまいりましたが、このたび新設する発電所は、非食用パーム油を加工したバイオ燃料を使用するもので、バイオディーゼル発電所では国内最大規模（注1）の発電所となります。

バイオという環境に配慮した燃料を使用したクリーンな発電により、需要家にとって電源選択の自由度を高めることができます。同時に燃料の精製から供給まで一貫して手掛けることでエネルギー流通のトレイサビリティー（追跡可能性）を明確化するものです。

自社開発の電源を確保することによって、当社が推し進める電力代理購入サービスやパラシシンググループ（代表PPS）（注2）への電力の安定供給に寄与するものとなります。

- (注) 1. 国内最大規模：国内で既発表の非食用原料によるバイオディーゼルにおいて（平成 26 年 5 月 12 日現在、当社調べ）。
2. 代表 P P S (Power Producer & Supplier の略)：電力会社の託送供給約款で認められている代表契約者制度のことで、幹事となる P P S が複数の P P S を取りまとめることにより、参加した各 P P S

ご注意：この文書は、当社のバイオ燃料による発電所新設に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。投資を行う際は、必ず当社が作成する新株式発行並びに株式売出届出目論見書及び訂正事項分（作成された場合）をご覧頂いた上で、投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

間でインバランスを調整してインバランスコストを低減することを目的としたスキーム。PPSは一般電気事業者（電力会社）以外で、50kW以上の高圧電力を必要とする大口需要家に対し電気の小売り供給を行う事業者。

2. 事業の概要

(1) 事業の特徴

バイオ燃料は化石燃料に代わるエネルギーとして期待されています。世界に目を向けるとパーム油をはじめとして、バイオ燃料は相当数の量が存在するため、今後バイオディーゼル発電所の規模拡大が予想されています。

当社が新設する発電所において使用するバイオ燃料は、インドネシアを始めとする東南アジア諸国から現地企業を通じて調達する予定です。これに伴い当社は安定的な燃料確保を目的として、グリーン燃料開発株式会社（本社：東京都北区、代表取締役：瀬尾裕文）と共同でバイオ燃料調達・精製事業に関して提携を行うことを検討するにあたり、基本合意書を締結いたしました。

グリーン燃料開発株式会社の子会社でインドネシアにてバイオ燃料開発を推し進めているPT. Indonesia Green Fuel Developmentに当社が共同出資して燃料の供給体制を整備し、安定的かつ価格競争力が伴った電力供給を目指すものとなります。

(2) 当該事業を担当する部門

燃料・電源開発事業本部

(3) 当該事業のために投資する金額

当社はバイオ燃料による発電事業のさらなる推進を計画しており、現時点では平成27年12月期までに出力計161MW（総投資額200億円）の投資を計画しております。

3. 日程

取締役会決議日 平成26年5月12日

稼働開始日（予定） 平成26年12月中

4. 今後の見通し

本件による当連結会計期間の業績への影響は軽微であります。なお、今後の業績に重要な影響が見込まれる場合には、速やかにお知らせ致します。

以上

ご注意：この文書は、当社のバイオ燃料による発電所新設に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。投資を行う際は、必ず当社が作成する新株式発行並びに株式売出届出目論見書及び訂正事項分（作成された場合）をご覧頂いた上で、投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。